

昨年の生ごみ資源収集試行アンケート結果



【昨年の試行期間】
平成 22 年 10 月 1 日
～ 12 月 23 日

昨年の生ごみ資源収集試行アンケートは、今回の夏場の試行でのアンケート結果とあわせて、市民の皆さんが取り組みやすい収集方法など具体的な実施内容を検討していく材料として生かしていきます。

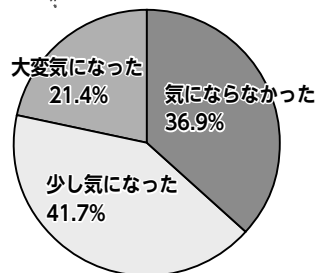
検証 2 生ごみの保管方法は？

>> 試行では、フタ付水切りバケツを無料配布



フタ付水切りバケツを無料で配布し、家庭で生ごみを保管いただきました。匂いについては、「気にならなかった」が 36.9%、「少し気になった」「大変気になった」が合わせて 63.1% となりました。

ニオイは気になりましたか？



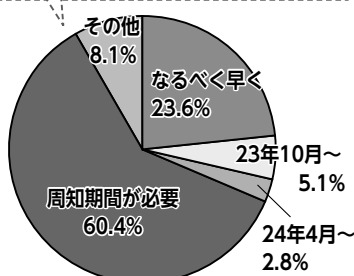
なお、フタ付水切りバケツを「必要」とした世帯は 37.6%。「なくても良い」が 23.5%、「あった方がよいが有料なら不要」が 38.9% となりました（夏場の試行ではステンレス製の三角コーナーのみの配布となります）。

検証 4 生ごみ資源収集の本格実施は？

生ごみ資源収集の本格実施時期について「住民が容易に取り組めるよう周知期間が必要」と回答した世帯が 60.4% となりました。

また、今後の取組みについて聞くと、21.6% の世帯が、昨年に試行した生ごみ資源収集の方法を支持しましたが、「コスト面、方法などに検討が必要」が 62.4% に上りました。

いつから始めるのが望ましいか？



こんなご意見もいただきました



- ・住民のメリット・デメリットを十分に説明してほしい。
- ・ひとり暮らしの高齢者には大変な取組みだった。
- ・アパートやマンションなどで実施できるか心配。
- ・家庭内でも反対意見があるのに、市全域での実施は困難では。

検証 5 生ごみ堆肥化処理に問題はないか？



微生物を使って堆肥化処理を行う。発酵で高温となり、施設内は湯気が立ち込める。

収集した生ごみは、今回、市内の民間処理施設（2 社）へ搬入。堆肥化には、2～4 カ月の期間が必要で、5 月まで実証。今後、堆肥化しにくい生ごみはなかったかなどを分析するほか、堆肥の安全性を確認しながら、市民の皆さんに家庭菜園などで有効に活用していただけるよう配布の仕組みを検討します。

また、「燃やすごみ」の処理費用は平成 21 年度で、24,000 円／t でしたが、試行では、生ごみを 21,000 円／t で処理できました。一方、収集した生ごみには、ビニール袋や水切りネットなどが混入していることも多かったため、新たな対策が必要と考えられます。

そこで、夏場の試行では、ビニール袋や水切りネット、新聞紙などに生ごみを包んだまま指定袋に投入できるものとし、異物除去工程を加え、堆肥化への影響や処理経費などを検証します。

こんなご意見もいただきました



- ・自分たちで苦労して分別した生ごみでできた堆肥なので、ぜひ使ってみたい。

昨年の試行事業でできた生ごみの堆肥の一部は、市役所で 5 月から実施しているグリーンカーテン計画（ゴーヤの栽培）で活用しています。



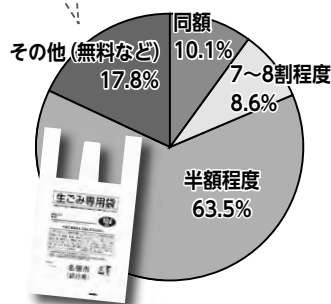
検証 3 生ごみ専用袋の価格は？

>> 試行では、生分解性プラ製の専用袋を無料配布

「生ごみ専用袋」の価格設定について、現行の指定袋と比べて「同額」「7～8 割程度」「半額程度」が合わせて 82.2% と、家庭ごみの有料収集について一定のご理解をいただきましたが、生ごみの資源収集を継続していくためにも、低価格に設定することが重要だと考えられます。

また、今回、生ごみと一緒に分解される生分解性プラスチック製の専用袋（製作費は、現行の指定袋より割高）を採用しましたが、「破れた」「少し弱いが破れなかった（破れそうだった）」が合わせて 33.1% と、袋の強度に問題があることが分かりました。

現在の家庭ごみの指定袋と比べた「生ごみ専用袋」の価格設定で望ましいのは？



こんなご意見もいただきました



- ・できる限り袋を安価にしないと、市民の賛同は得られないと思う。
- ・目的や趣旨は理解できるが、生ごみの分別は面倒で直接のメリットが感じられない。
- ・生ごみを包む小袋などは混入してもよいようにしてほしい。